

1 気象概況（7月前半：果樹研究所）

7月1～3半旬の平均気温は、1半旬が22.7℃で平年より0.9℃高く、2半旬が25.7℃で平年より3.3℃高く、3半旬が24.8℃で平年より1.7℃高い状況でした。この期間の降水量は70.5mmで平年の73%でした。

2 土壌の水分状況（7月15日現在）

果樹研究所における土壌水分（pF値：無かん水・草生栽培りんご園）は、深さ20cmは1.3でやや過湿傾向、深さ40cmと60cmは、それぞれ2.1と2.3で適湿状態となっています。

3 生育状況（果樹研究所）

(1) もも

ア 果実肥大（7月15日現在）

果実肥大を暦日で比較すると、「あかつき」は縦径が56.7mmで平年比103%、側径が59.2mmで平年比104%、「ゆうぞら」は縦径が50.4mmで平年比103%、側径が45.7mmで平年比102%と、両品種共に平年よりやや大きい状況です。また、満開後日数による比較では両品種共に平年並みの状況です。

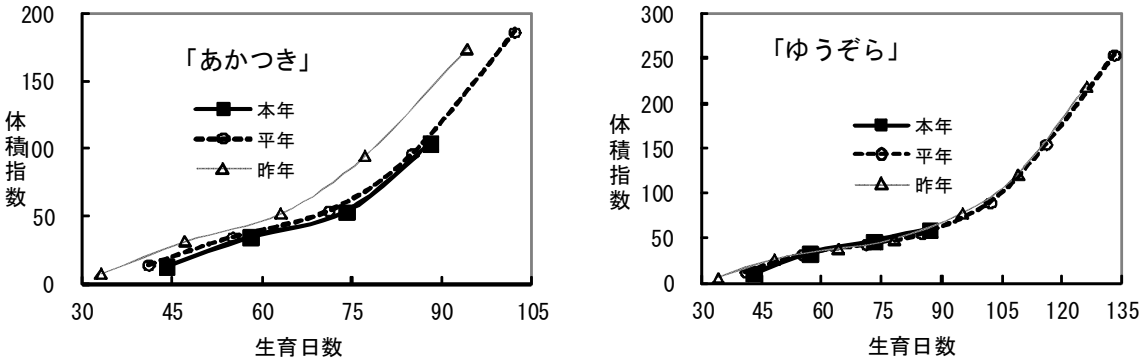


図1 ももの果実肥大（満開後日数比較）

イ 新梢生長（満開後82日）

「あかつき」の新梢生長は、新梢長が12.5cmで平年比95%とやや短く、展葉数は13.8枚で平年比90%と少ない状況です。また、葉色（SPAD値）は平年比100%と平年並、新梢停止は早い状況です。

ウ 核障害の発生（満開後85日）

「あかつき」の核頂部亀裂の発生率は30%、縫合面の割裂の発生率が30%で共に平年より少ない状況です。

エ 収穫期予測

「あかつき」の収穫予測では、収穫始めは8月2日、収穫盛りは8月6日で共に平年並と予測されます。

オ 早生品種の収穫期

「ちよひめ」の収穫始めは7月4日で平年より1日早く、収穫盛りは7月9日で平年より1日遅い状況です。果実の大きさは225gで平年より大きく、糖度は10.0%で平年より低い状況です。

表1 ももの発育予測（7月15日現在）

品 種	収穫始め			収穫盛り		
	本年予測	平年	平年差	本年予測	平年	平年差
あかつき	8月2日	8月2日	平年並み	8月6日	8月6日	平年並み

注) 発育速度（DVR）モデルによる発育予測。平年は1981年～2010年の平均。

(2) なし

ア 果実肥大（7月15日現在）

果実肥大を暦日で比較すると、「幸水」は縦径が41.7mmで平年比107%、横径が52.3mmで平年比112%、「豊水」は縦径が41.7mmで平年比104%、横径が46.9mmで平年比108%と、両品種共に平年より大きい状況です。また、満開後日数による比較では、「幸水」は平年よりやや大きく、「豊水」は平年並みの状況です。

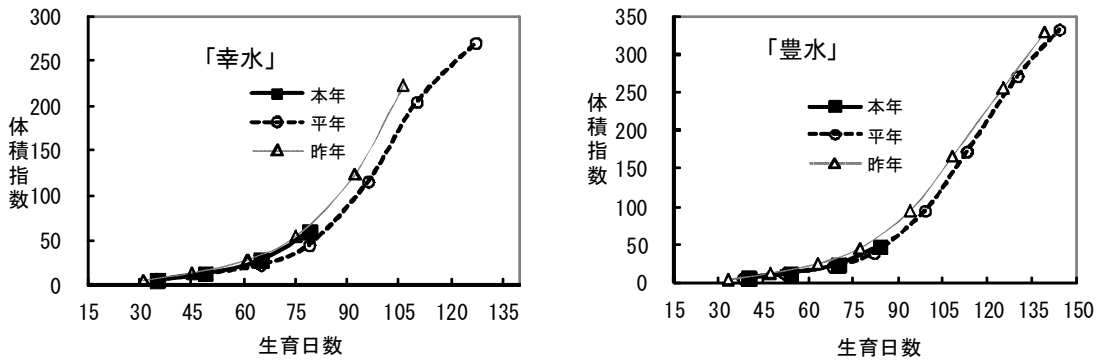


図2 なしの果実肥大（満開後日数比較）

イ 新梢生長（満開後70日）

「幸水」の予備枝新梢長は106.4cmで平年比97%、不定芽新梢長は92.0cmで平年比98%と、平年よりやや短い状況です。

ウ 裂果の発生

「幸水」の裂果の平年の初発日は7月14日ですが、今年は7月16日（満開後80日）現在で発生は確認されていません。

エ 生育予測

DVRモデルによる「幸水」の収穫予測では、収穫盛期が8月30日頃で平年より3日早いと予測されます。

(3) りんご

ア 果実肥大（7月15日現在）

果実肥大を暦日で比較すると、「つがる」は縦径が61.4mmで平年比107%、横径が70.4mmで平年比108%と平年より大きく、「ふじ」は縦径が51.6mmで平年比101%、横径が56.9mmで平年比103%とほぼ平年並の状況です。また、満開後日数による比較では、「つがる」は平年より大きく、「ふじ」は平年並みの状況です。

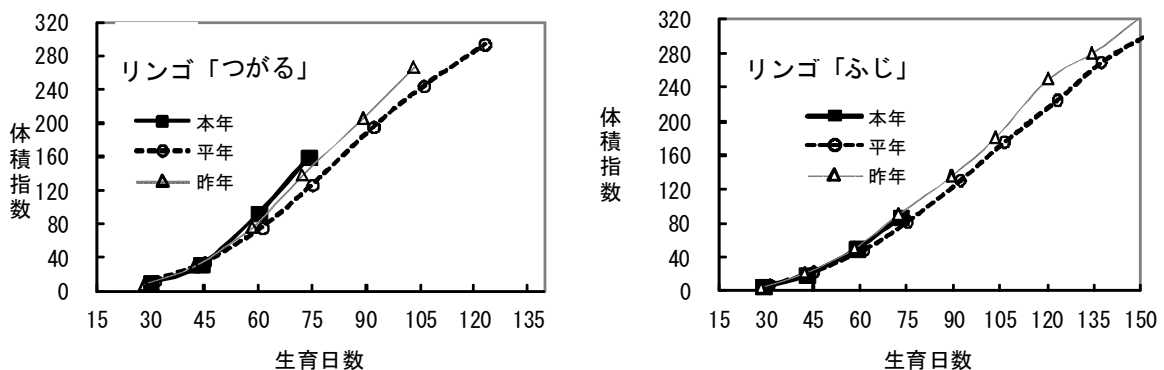


図3 りんごの果実肥大（満開後日数比較）

イ 新梢生長

「ふじ」の新梢伸長は満開後40日までに停止し、平年並みの状況です。

(4) ぶどう

ア 「あづましずく」の着色開始期

新短梢一文字栽培は7月16日（2012年は7月24日、2011年は7月18日）、長梢栽培は7月11日（2012年は7月23日、2011年は7月15日）です。

4 栽培上の留意点

(1) も も

ア 早生品種の収穫

早生品種は核割れ果を中心に果肉先行の傾向となっています。収穫は地色を基準に遅れないように注意しましょう。

イ 中生品種の収穫前管理と収穫

核障害果（変形果、異常着色、縫合線の裂果など）等の発生が多い園地では、修正摘果を丁寧に行いましょう。中生品種はまもなく着色期に入りますが、夏季せん定、支柱立て、枝吊り、反射シートの設置など収穫前の管理が遅れないよう計画的に実施しましょう。

(2) りんご

ア 修正摘果

現在、果実肥大や果形の差、障害果等の区別が付きやすい時期なので、小玉果、変形果、病害虫果、サビ果などを中心に修正摘果を実施しましょう。

イ 枝吊り・支柱立て

果実の肥大にともない枝が下垂するので、樹冠内部の日当たり改善、枝折れ防止のため支柱立て及び枝吊りを実施しましょう。

(3) な し

ア 新梢誘引

腋花芽着生を目的とした新梢誘引の適期となっています。また、不定芽新梢を含めた新梢誘引は受光条件の改善や防除効果の向上、冬季せん定後の結果枝の棚付けの軽労・省力化が図られることから、必ず実施しましょう。「豊水」の新梢は湾曲したり下垂しやすいことから、新梢誘引により方向を修正し、枝の重なりを回避して樹冠内部の日当たり改善に努めましょう。

イ 修正摘果

「幸水」は裂果発生時期となるため摘果を控え、裂果が収束してから修正摘果を実施しましょう。修正摘果は、肥大不良果、果形不良果、障害果等を丁寧に摘果しましょう。

(4) ぶどう

ア 着果管理

ぶどうの着色始めは、果房中のいくつかの果粒が飛び玉状に濃く着色するのが望ましい状態です。全体的にぼんやりと着色する場合は、着果過多等が原因と考えられますので、早急に着房数の見直しを行いましょう。

イ 新梢管理

果実品質の低下や新梢の登熟不良を防止するため、7月下旬～8月上旬頃を目安に、伸長が停止していない新梢は摘心を実施しましょう。摘心は先端の生長点を軽く摘む程度に実施します。また、伸長が停止しない副梢は2～3葉残して摘心しましょう。棚下が暗い場合は、徒長的な新梢を中心に新梢の間引きを行いましょう。ただし、間引く本数は必要最小限にとどめるよう心がけましょう。

ウ 水分管理

「巨峰」等の主要品種は7月下旬にベレーゾン期を迎えます。ベレーゾン期は1日当たりの水分消費量が多くなるため、根の活力を保つとともに、土壌水分を保持するよう心がけましょう。

降雨が多い場合、土壌の過湿により根の活力が低下し、晴天高温日に葉焼けや縮果症の発

生につながることから、土壌の排水対策も徹底しましょう。気温が35℃を越えると枝葉や地表面からの蒸散量が極めて多くなるため、適宜かん水を実施しましょう。

5 病害虫防除上の留意点

(1) 病 害

ア リンゴ斑点落葉病、輪紋病

斑点落葉病と褐斑病は、共に高温多雨条件で急増することから注意が必要です。薬剤防除は10日間隔で実施しましょう。褐斑病の発生が認められる園では、二次感染の防止のため、7月下旬の防除を徹底しましょう。

なお、輪紋病の発生が多い場合は効果の高い薬剤を選択し、この時期の防除を徹底しましょう。

イ もも灰星病、ホモブシス腐敗病

現在、中～晩生種の灰星病およびホモブシス腐敗病の重点防除時期となっていますので、防除を徹底しましょう。

ウ ももせん孔細菌病

晩生種で本病の発生が多い場合は、7月20日頃または7月30日頃にせん孔細菌病防除剤を散布しましょう。ただし、収穫前使用日数には十分注意しましょう。

エ なし黒星病、輪紋病

黒星病の発生が多い園は、7月下旬の防除を徹底しましょう。輪紋病の発生が多い場合には、本病害に効果の高い薬剤を選択し防除を徹底しましょう。

(2) 虫 害

ア モモハモグリガ

モモハモグリガ第4世代幼虫の防除適期は、7月6半旬頃と推定されます。本種の発生には無防除のハナモモ園や放任園などの影響が考えられるため、無防除園の管理や放任園の伐採等を行いましょ。

イ モモノゴマダラノメイガ

所内のモニタートラップによる調査から、第1世代成虫は7月5半旬頃から発生すると推察されます。被害の発生が予想されるモモ園では、中晩生種に対して7月下旬～8月中旬に防除を行いましょ。

ウ ナシヒメシンクイ

ナシヒメシンクイ第2世代成虫の発生盛期は7月5半旬頃と予想され、防除適期は7月6半旬頃と推定されます。本種は第3世代からなし果実への寄生が増加するため、例年なしの果実被害が多い地域では、近隣もも園の芯折れの発生状況に注意するとともに、第3世代幼虫以降の防除を徹底しましょ。

エ リンゴコカクモンハマキ

第2世代幼虫の防除適期は8月1半旬頃と予想されますので、被害が心配される園地では防除を徹底しましょ。

オ コガネムシ類

例年、ドウガネブイブイの羽化盛期は7月中下旬頃です。ドウガネブイブイやヒメコガネ等が活発に飛来する時刻は、日没後から約3時間（18時～21時頃）なので、誘殺灯を使用する場合は、この時間帯に点灯しましょ。なお、もも園での被害が予想される場合は適宜防除を行いましょ。

カ ハダニ類

高温が続く場合はハダニ類の急増に注意し、要防除水準（1葉当り雌成虫1頭）の密度になったら速やかに防除を行いましょ。

表2 主要鱗翅目害虫の防除時期の推定（果樹研究所 7月16日現在）

今後の 気温予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第3世代 成虫盛期	第4世代 防除適期	第2世代 成虫盛期	第3世代 防除適期
2℃高い	7月23日	7月26日	7月21日	7月27日
平年並み	7月24日	7月28日	7月22日	7月29日
2℃低い	7月25日	7月29日	7月23日	7月31日

注) 演算方法は、三角法による。

起算日：ナシヒメシンクイ 6月22日、モモハモグリガ 7月4日

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7339
 (以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL：http://wwwns.pref.fukushima.jp/pcp_portal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=22752#gijyutsujyohou

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>